

■昭和42年度年度関東地区土木系学生会の 活動方針

昭和37年関東地区土木系学生会結成以来、わが学生会は順調に発展し、現在参加校は14校の多くを数えています。本格的に活動が開始されたのは、昭和39年ごろからで、その活動の中心課題は、土木系学生の相互親睦でありました。しかしながらこの二、三年の活動状態をみますと、講習会、見学会、講演会といった種々のアカデミックな行事が企画され、昨年度の活動等とても充実した内容であったのではないかと思います。が、ここで忘れてならないことは親睦、意見交流を主体とする場から、一息にアカデミックな活動を主体とする組織に切替わろうとする気運が非常に急がれているように思えるのです。われわれ土木系学生会は、単なる親睦団体から脱皮して、アカデミックな色彩をもつ団体に成長することは、非常に好ましいことだと思います。しかし今年1年間活動にたずさわる者として、この会の根本に戻って、活動ならびに運営における諸問題を論じ、新年度活動に臨みたいと考えます。

第一に、われわれの活動はあくまでも土木系学生会員を対象とすることをたて前とし、一人でもより多くの学生が、この会の具体的な仕事や行事に参加されるよう、本年度もさまざまな催し物を企画しています。しかし昨年の活動状況を顧みると、いろいろな企画は予定したものの、資金不足のため、満足な活動ができなかったようです。学生会の資金源はほとんどが、入会金や会費からまかなわれるのですが、今までは年間入会金、会費とし、50円を徴収してました。ですが、本年はそんなわけですから、入会の際は、1カ年入会金は貰わずして、会費として200円を徴収することになりました。こんなわけで、われわれ執行部としても会費を値上げした以上、学生に十分満足して頂ける活動をしなくてはならないと努力してます。この点を良く理解されて、ぜひ皆様も1人でもより多く参加されたことを切望致す次第です。

第二に、今までのこの会は、どこか一部の学生の利益と親睦のためのサロン化となりながらで、本来の目的—あくまでも土木系学生全員のものである—が達成されていないように思えるのです。ですから、この点を少しでも緩和するためにも、今年度は執行部役員（われわれ学生会の運営に直接タッチするメンバー）と各大学の班

長、副班長（毎月2度行なわれる例会での決定事項をそれぞれの大学に連絡かつ各大学の意見を例会で反映するメンバー）をハッキリわけ、さらに班長、副班長は執行部役員以外の学生から選出し、各大学ともそれぞれ各1名とすることに決めました。こうすれば、幾分でもより多くの学生に、この会の具体的な仕事に参加されるようになると思うからです。また、この会のいろいろな行事に関しては、学生にPRして参加者を募集するわけですが、その際われわれの催し物（ことに見学会、講習会等）は参加者人数が各大学とも限定されてしまい、学生全員の参加が行なわれない現状です。それゆえ、極論になるかも知れませんが、できたら、ある催し物に一度参加された方は、他の行事の参加をご遠慮願うというようにして、あくまでも本来の学生会の目的を達成したいと思えます。こんなわけで、平素いかにしたら、会員全員がわれわれ執行部と分け隔てなく活動に参加できるようになるかを考えながら、この一年間の活動を推進してゆくつもりです。

第三に、今まで述べてきたとおり、われわれ学生会には、まださまざまな問題が残されています。しかし、この運営活動上の問題を一つ、一つ解決してゆくためには、今までの規約にそわない点が生じてくるわけです。たとえば規約改正という件がそれです。が、この件については、具体的な討議もなされていませんから、まだここで取り上げるべきでないと思えます。このようにしてさまざまな問題を論じつつ、そこに派生する新たな問題を解決してゆき、土木系学生会を、より一層向上、発展させてゆきたいと考えてます。

最後になりましたが、現在、われわれ学生にとって大切なことは、この会に入会され（この点に関しては、この学生会に入会することに限らず、他のサークル、団体等においてもしかり、学生会内にも、まだたくさん問題点が潜在しているように、さまざまな社会問題に対して批判し、かつそこに見い出される解決策を考え、将来、就職後、その考え方を社会に還元してゆき、ことにわれわれ土木系学生にとっては、より良い社会建設のために貢献するという態度ではないでしょうか。

（文責・鈴木）

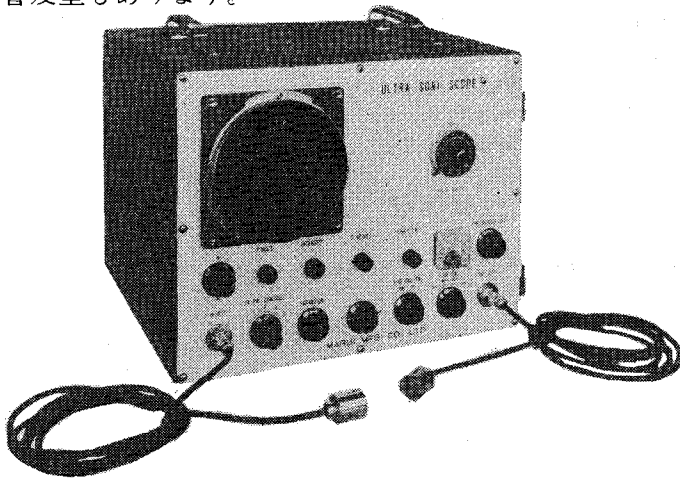
* 圓井の試験機



自動供試体 キヤッピング機

MIC-196-D型

平面度 $\frac{2}{100}$ mm以下をハイスピードで仕上げます。2ヶ掛普及型もあります。



超高波 高温時非破壊試験器

MIN-1106型

コンクリート・黒鉛・金属の高温時における弾性係数の測定器。1,500℃まで可能。

コンクリート / 土質 / アスファルト / 水理 / 非破壊試験器 / 製造・販売



株式会社 圓井製作所

本社 / 大阪市城東区蒲生町4丁目15
大阪(06)(931)3541(代表)
東京支店 / 東京都港区芝公園14-9
東京(03)(434)4717(代表)

鋼橋 第三卷

B 5 判・876頁 定価 5,500円 東大教授 平井敦著
 執筆者 平井敦(東大)伊藤学(東大)岡内功(中大)
 倉西茂(東北大)西脇威夫(武蔵工大)

各章項目

第1章	ローゼ桁汎論	平井敦, 西脇威夫
第2章	補剛アーチ橋の設計	" , 倉西茂
第3章	ローゼ桁計算例	" , 西脇威夫
第4章	ランガー桁およびランガートラス	" , "
第5章	吊橋の概説	" , 伊藤学
第6章	ケーブルとその定着	" , "
第7章	吊橋の弾性理論	" , "
第8章	吊橋の撓度理論	" , 伊藤学
第9章	吊橋の固有振動	伊藤学,
第10章	吊橋の耐風性	平井敦, 岡内功
第11章	小吊橋の設計	" , 西脇威夫
第12章	長大吊橋の設計	" , (協力: 西田繁一)
補遺1.	アーチの座屈	" , 倉西茂
補遺2.	橋梁力学と方行	" , 西脇威夫

□監修 社団法人 土木学会 出版(株)技報堂

土木工学叢書委員会

委員長 最上武雄

委員 米元卓介 谷藤正三 森茂 白石俊多 丸安隆和 河野通之
 ・八十島義之助・春日屋伸昌(・印兼幹事 順不同)

■部門および執筆委員

構造力学	奥村敏恵(東京大学)	河岸工学	本間仁(東洋大学)
土質力学	最上武雄(東京大学)	基礎工	松尾新一郎(京都大学)
	市原松平(名古屋大学)		白石俊多(地下工事コンサルタンツ)
	山口柏樹(東京工業大学)	トンネル工学	坂本貞雄(大林組)
	山内豊聡(九州大学)	建設機械	加藤三重次(建設材協化協会)
	赤井浩一(京都大学)	港湾工学	新妻幸雄(日本港湾コンサルタンツ)
	網千寿夫(広島大学)	空港	林鋼太郎(運輸省)
	中瀬明男(運輸省・港湾研)	鉄筋コンクリート	河野通之(日本交通技術)
	木村孟(東京工業大学)	コンクリート	国分正胤(東京大学)
水理学	林泰造(中央大学)	○鋼橋(III)	平井敦(東京大学)
水文工学	竹内俊雄(水資源開発公団)	○木構造学	福田武雄(東京大学名誉教授)
耐震工学	久保慶三郎(東大・生研)	○下水道学(前後)	杉戸清(名古屋市)
測量工学	丸安隆和(東大・生研)	○コンクリート橋	横道英雄(北海道大学)
鉄道工学	沼田政矩(国士館大学)	○応用力学	岡本舜三(東大・生研)
	八十島義之助(東京大学)	○プレストレスト	
都市計画および	井上孝(東京大学)	○コンクリートの	
国土計画	松井達夫(早稲田大学)	設計および施工	猪股俊司(日本構造橋梁)
衛生工学(上水道学)	石橋多聞(東京大学)	鋼橋(I-II)	平井敦(東京大学)
"(下水道学)	徳平淳(東京大学)	○道路工学	片平信貴(日本道路公団)
発電工学	吉越盛次(電源開発)	○機械化土工	種谷突(鹿島建設)
河川工学	渡辺隆二(建設省)		○印既刊(第1次)
砂防・地すべり	谷口敏雄(日本工営)		
	村野義郎(信州大学)		

次回発刊・土質力学

技報堂 東京都港区芝西久保桜川町7 電 591-2277